

## ■令和5年5月30日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和5年5月30日（火）10:00～11:00
- 2 場所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、企画部文化政策調整監、地域創生部長  
市長公室長、企画調整課長、商工港湾課産業振興主幹  
○酒田記者クラブ11社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、  
山形新聞、荘内日報、NHK、山形放送、山形テレビ、テレビユー山  
形、さくらんぼテレビ）  
○コミュニティ新聞、産経新聞（記者クラブの承認により出席）

## ■市長発表事項

### 1 東京藝術大学と酒田市との連携・協力協定の締結について

市長／東京藝術大学と酒田市との人づくり・まちづくりに関する連携・協力の協定締結についてでございます。

この度、酒田市は東京藝術大学、学長は日比野克彦学長でございますが、こちらとの間で「「アート人財」と「文化・芸術的資源」の活用による人づくりとまちづくりに関する連携及び協力に関する協定書」ということで、大変長い協定なのですが、6月1日付けで締結することとなりました。

酒田市は、特に芸術文化振興におきまして、東京藝術大学と非常に結びつきが強いものでございます。

一つは、2017年に名誉市民を授与させていただきましたオペラ歌手の市原多朗先生をはじめとして、遡ると岸洋子さんというポピュラー歌手もいらっしゃったわけですが、この方も東京藝大の卒業でございました。

それから、現在という観点から言いますと、酒田市出身の写真家であります藝大の現在教授ですが、佐藤時啓という先生がいらっしゃいます。この方にはさかた文化財団の理事を務めていただいております。

それから、宮本武典先生。この先生も藝大の准教授ですが、山居倉庫の整備、活用のご指導をいただいている先生でございます。

それから、熊倉純子先生。この方には文化芸術推進審議会の委員を務めていただいております。

こういった形で、東京藝術大学の様々な関係者の皆さんとは深いお付き合いをさせていただいております。様々なご指導をいただいているわけですが、今回そういったこともあり、この度の協定によって、さらに東京藝術大学と本市の文化芸術振興において密接な関わりをこれからも継続していきたいという意味から、この連携及び協力に関する協定を締結させていただいたものでございます。

ご存知の通り、今年度から芸術文化政策を市長部局の方に移管いたしました。

お配りしております資料の1を少しご覧いただきたいと思います。

これは、昨年度の段階になりますけれども、酒田市文化芸術推進審議会、会長が中川幾

郎先生でありますけれども、この先生から、所管でありました教育長に対して事業評価についての答申を受けたものでございます。

この文化芸術推進審議会の委員、その次のページにメンバーが書いてございますけれども、熊倉純子先生、ここにいらっしゃるけれども、東京藝術大学の教授でございますが、こういったメンバーの皆さんから答申書をいただいているということでございます。

この答申書の実現に向けて、どのような施策を進めたらいいのかということで、これまで中川先生或いは市原多朗先生、熊倉純子先生などと意見交換を重ねてきたところでございました。

先生方からは特に、別紙資料1の答申書の2、太枠で囲んでございますけれども、この「2 文化芸術活動を支える人材の育成」つまり、市民の間に立ちまして、文化芸術活動のコーディネーターができる人材の発掘と育成が何よりも大事だということで、意見をいただいたところなのです。

この意見を踏まえて、いろいろ関係者と協議をした結果、この文化芸術系の最高学府であって、歴史もそうですし実践により育成された、多くの多様な人材、多彩な人材を輩出している東京藝術大学との連携の中から、そういったコーディネーターの育成を図っていくという趣旨での今回の協定でございます。

具体的にどういうことかと言いますと、協定を締結した上で、令和5年度、今年度ですけれども、「市民によるアートコーディネーターに関する調査・研究」を東京藝術大学に委託をして、実施をしたいとこのように考えております。

そのための委託料、5,317千円ですけれども、6月定例議会に補正予算を計上するというようにしております。

いま、お手元に配ったのは、この協定案です。6月1日付けになると思いますので、協定案を皆さんにお配りさせていただいております。

これは、後程ご覧いただきたいなと思っておりますけれども、市民によるアートコーディネーターの育成に関する調査・研究をまずは藝大の方をお願いをする。

あわせて、この委託にあたりましては、東京藝術大学から人材を酒田市に派遣をしてもらって、派遣された人材の方から、この酒田に居住をしてもらって、こういったアートコーディネーターの育成への活動ですとか、或いは酒田のアートに関するまちづくりに対して、いろいろな助言等もいただこうかなと、このように考えているところでございます。

それから、連携・協力項目の(3)というところに、文化・芸術資源を活用したアートによるまちづくりに関することというのがございます。

ここは、先程もちよっと言いましたけれども、現在関わっていただいております宮本武典准教授がいらっしゃいますけれども、この方からは引き続き山居倉庫の整備活用についても助言等アドバイスをいただければなど、このように思っております。

藝大からの派遣人材につきましては、着任は7月を予定しているところでございます。以上が、この東京藝術大学との連携及び協力に関する協定書のニュースでございます。東京藝術大学は、全国でこういった協定をいろんなところとやっております。県との協

定では5つです。一番新しいのが、石川県と包括連携協定を結んでおりまして、今年の2月7日であります。その他、愛媛県、長野県、長崎県、香川県、こういったところと協定を結んでおります。

市区町村レベルで言いますと、実はこれまで7つの市区町とこういう協定を結んでおります。連携協定という意味では、台東区、足立区、荒川区、それから横浜市、茨城県の取手市、山梨県の北杜市、長野県の高遠町（現在合併により伊那市）。

おそらく酒田が今度結ぶということになりますと、8番目の市区町、山形県ではもちろん初めてということになるかと思えます。

以上がこの連携・協力協定の締結についてでございます。

このアート人財という言葉の意味するところは、東京藝術大学の歴史と実践により育成された多様で多彩な才能、それを文化・芸術的資源、酒田市に住むすべての人と文化的施設、そういったところに、惜しみなく注ぎ込んでいただければというような協定ということになるかと思えます。

6月1日付で協定は結ばせていただきますが、大変、日比野学長も忙しい方なものですから、締結式みたいなものは、一応予定はしておりません。

然るべき日、6月に入りましてから、私どもの方で藝大に訪問させていただいて、日比野学長と面会をした上で、この連携・協力協定の締結についての御礼を申し上げたいなど、このように考えているところでございます。

藝大のこれがマーク（大学ロゴ）ですね。よろしくお願ひしたいと思えます。

**記者**／協定に基づく委託事業なのですけれども、こちらは単年度事業になりますか。

**市長**／単年度です。

**記者**／すでに希望ホールの方で、「さかたアートアカデミー」という事業をやっていたかと思うのですけれども、そちらと、今回の事業はまた別のものになりますか。

**市長**／直接的には関係ないです。

ただ、今後、そういった事業をやるときに、東京藝大の様々なノウハウだとか、アドバイスだとかを受けて、来年度以降になると思えますけれども、事業の中身が変わっていく。そういうことは十分あり得る話だと思えます。

**記者**／藝大からの派遣人材というのは、何人ですか。

**市長**／1人です。

**記者**／期間としてはどれくらいですか。

**市長**／一応委託ですので、まずは年度内ですね。

ただ、私どもとしては、来年度以降も引き続き、藝大の環境が許す限りですね、少し継続をさせていただければなという思いでおりますが、現状の委託契約、或いはこの協定上は、まず単年度、単年度でつないでいきたいなど、このように思っております。

**記者**／藝大の派遣される方の階級というか、役職というか、こういった立ち位置の方でし

ようか。

**文化政策調整監**／この委託によって、藝大の研究室にお願いをする形になります。その研究室の方から人選をいただいて、派遣をいただくという形になりますので、まずは議会、今、お諮りをするという段階でございますので、議論を経ながら遅れないように人選をしていただきたいなというふうには思っております。

ただ、階級については、恐らくはその研究室を卒業された方になろうかというふうに考えております。大学院になるかなとは思いますが、卒業された方というふうには今のところは考えております。

**市長**／この熊倉純子先生というのは、大学院の研究科長をされている方なのです。大学院のトップですよ。

ですから、その方の教え子で、将来、様々な芸術系の大学で、准教授とか教授とか、そういうところに進むであろう優秀な人材を派遣していただけるものと、このように理解をしております。

**記者**／藝大と酒田市の関わりをもう一度確認させていただきたいのですが、この熊倉純子さんというのは、酒田市出身というわけではないのでしょうか。

**市長**／関係はないです。

**記者**／市原多朗さんというのは、酒田市出身の声楽家で藝大卒ですか。過去には岸洋子さんもいると。

**市長**／はい。

**記者**／あと、先程の宮本さんというのは、山居倉庫の調査で助言をされている方でしょうか。

**市長**／はい。

**記者**／酒田市出身というわけではないのですね。藝大の今、准教授ということですね。

**市長**／はい。

**記者**／あともう一人、藝大の佐藤時啓先生というのはどのような方でしょうか。

**市長**／佐藤時啓先生は写真が専門で、実はさかた文化財団の、今、理事をされております。

**記者**／この方は、酒田出身というわけではないのですか。

**市長**／酒田出身の藝大の教授です。

**記者**／ついでにもう一つ、この文化芸術推進審議会の学識経験者のなかの、中川幾郎さんと書いてありますけれども、この方というのは酒田とどういう縁があるのでしょうか。

**市長**／実は、酒田市で文化芸術基本条例という条例を県内で初めて作っているのです。

平成30年に作っているのですが、その時に、その分野の日本でいうと第一人者で、私も、推進計画も同時に作るのですけれども、その際の条例作りにご指導いただいた先生なのです。

その経緯もあって、条例ができて、そしてこの文化芸術推進審議会というのが作られるわけですけれども、その時に市が審議会の会長ということでお願いをして、これまで関わ

っていただいた先生であります。

自治体が絡んだ文化芸術振興の分野では、日本でも第一人者の方ですね。

**記者**／この先生も藝大とは関係ないのですね。

**市長**／直接は関係ないです。

**記者**／芸術振興の条例を作る際に、指導いただいた方で、その後ずっといらっしゃるということですね。

**市長**／そうですね。

**記者**／私、遅れてしまいましたので、冒頭におっしゃっていたら恐縮なのですが、今回のこの協定にあたっての受け止めを一言だけいただけませんか。

**市長**／受け止めですか。受け止めはですね、実は私、2017年に市原多朗さんを名誉市民に授与させていただきましたけれども、その際に、世界的なオペラ歌手だという思いは私もありまして、この方に是非、名誉市民を授与したいということで差し上げているわけですが、その時に、それをきっかけに東京藝術大学とこの地域とを結びつけられるかな、という思いが実は強かったのですね。

ところが、なかなかきっかけがなくて、東京藝術大学と、例えばその関わりの中で、この地域の文化芸術振興にノウハウをいただきたいという思いもありましたし、学生さんも、例えば酒田に来て、アートキャンプを開いたり、要するに交流をしたいと、そういうことでこの地域全体の文化芸術水準を高めていきたいという思いが強かったのです。

ところが、なかなか具体的に協定という形を残して交流をするというところは、ハードルが高くて手こずったということだったのですが、今回、この文化芸術推進審議会の熊倉先生はじめ、いろんな方々からご支援いただいて、この地域の文化芸術振興のために、藝大としても貢献をしたいという話がありましたので、ならばこういう協定を結んで、いろいろ人材も派遣していただいて、この地域の風土を高めていただきたいということが叶ったという思いで、達成感が非常にあったというふうに思っております。

先程も、職員の皆さんにも言ったのですが、後程いろいろ質問はあるのかもしれませんが、私8年間市長をやる中で、やはりこの文化芸術の風土づくり、それから産業振興というのは、施策の中でも非常に大きな柱だったということからすると、今回このタイミングで、この協定を結べたというのは大変な喜びですし、ある意味、達成感も持っているというのが現状でございます。

**記者**／協定を結んだ後に、市民が参加して、講座みたいなものを作られたりして、アート人材を育成して、実際にいつ頃から始まるのか具体的な話がありますか。

**市長**／委託で、7月に派遣してもらいますので、7月から実際の活動を展開していきたいと思っております。

調査事業とは言いながらも、現状どうなっているかということから始まっていくと思いますので、そういった中で、市民の皆さんとのやりとりも通じてですね、そういうアート

人材の育成の活動を進めていただければなど、このように思っております。

調査事業としては今年度の委託ですけれども、先ほども申し上げましたけれども、来年度以降も人材を育成するという活動については、継続してやっていただけるものと、このように理解をしております。

**記者**／市長のその人材育成というのは、市民から見ると学べるということによろしいでしょうか。

**市長**／学ぶことから始まると思いますけれども、いわゆる自らいろんな組織を作って、このアートのまちづくりを進める推進母体を作ってもらうとか、それから、酒田は任意団体として芸術文化協会という組織があります。その会長は、今の文化財団の理事長であります村上幸太郎理事長が、芸文協の会長も兼務しているというところなのですけれど、この酒田の芸術文化協会そのものが、今、任意団体から何らかの法人格を持つ組織に、ある意味、拡充をしていきたいという動きもありますので、そういった組織を作る上で何が必要かとか、いわゆる組織づくりの面でもいろいろなノウハウを指導していただければなと思います。

それから、組織だけできても、そこで動く人間がそういう素養がなければ始まりませんので、そういう意味での人材育成もこれは必要だろうということで、組織と人材の育成のために、藝大から派遣していただく人材の方から指導をお願いしたいというのが、我々のねらいでございます。

ただ、将来的にはそれだけでなく、今までもそうだったのですが、市原先生は、藝大卒の若手のオペラ歌手を酒田に呼んできて、いろいろなコンサートとか、学校での子供たちの指導とかもしていただきましたので、藝大との関係では、そういった繋がりなども、一方ではやっていけたらいいなど、このように思っております。

## **2 共創施設「渋谷キューズ」への入会及び施設の利用について**

**市長**／共創施設「渋谷キューズ」への入会及び施設の利用について、という項目なのですが、まず、「渋谷キューズ」なるものが、どういうものなのかというのを少し見ていただいてから、話をしたいなと思いますのでご覧いただきたいと思います。

～渋谷キューズ紹介動画視聴～

実は、酒田市産業振興まちづくりセンターの運営協議会、これがいわゆるサンロクと我々は呼んでおりますけれども、ここでは、この「渋谷キューズ」に、法人会員として今回入会をすることといたしました。これは、山形県内の自治体等では初めての入会となります。

今、ご覧いただいたかと思いますが、資料にも概略図を示しておりますが、この「渋谷キューズ」で活動を展開しております様々なコミュニティ、いわゆる企業だとか、団体、大学、クリエイター等のそのアイデア・ノウハウを取り入れながら、酒田市ですとか或いは酒田市内の中小企業等が抱える課題の解決に向けて共に取り組む拠点として、「SAKATA SANROKU innovation space」というスペースを設けて、これを令和5年6月か

ら利用を開始すると、これが今回の発表事項でございます。

本市や市内中小企業等が抱える様々な課題、どういったものがあるのかということになるのですが、実は我々は3つあるというふうに考えております。

1つ目は、酒田市内の中小企業や事業者の皆さんの事業の内容や規模の拡大であります。

具体的に言うと、自らの事業内容を紹介するイベントを開催して、連携或いは共創し、連携・共創による新しいプロジェクトですとか、事業を創出するということが、今回のこの事業の内容や規模の拡大という中身になります。

これについては、こういったことをやりたいという方は、施設或いはサービスを無料で利用できるということになります。サンロクがこの会員になることによってですね。

それから2つ目の課題として取り組む柱は、新しい産業ですとかビジネスを作り出すということです。

具体的に言うと、酒田市が抱えている課題ですとか、地域資源だとか、立地環境なんかを紹介するイベントを、その場で開催して、それに関心を持ってくださる中央の企業、団体、大学、クリエイター等がいれば、一緒に実証実験ですとか実証事業を持ってこられないかと、そういう活動、これが2番目の取り組む柱です。

それから3つ目は、やはりここの場を通して関係人口等を作り出すということでありませう。

例えば、U I J ターンの促進ですとか、移住交流関係人口の創出に繋がるイベント等をこの渋谷キューズで開催したり、或いは酒田にゆかりがある方、例えば本市出身の大学生だとか社会人等の方々ですけれども、そういった方々等も、この施設やサービスを無料で利用できるということになります。

こういった活動の場として、この「SAKATA SANROKU innovation space」というものを、皆さんから利用していただきたいという思いで、今回入会をしたものでございます。

まだまだPRできておりませんので、実は資料にもございますが、6月13日午後6時から、キックオフイベントというものを開催する予定でございます。

多くの企業の皆さん或いは在京の、先程申しましたけれども、本市出身大学生ですとか社会人の皆さん等も含めてですが、この施設を利用していただければと、このように考えております。

**記者**／「渋谷キューズ」に入るサンロクの運営協議会だったのですが、こちらは現在、法人個人で何社ぐらいが加盟されているのでしょうか。

**産業振興主幹**／今のご質問ですけれども、サンロク運営協議会としては、10の団体で協議会を構成しています。

ただ、今回、「渋谷キューズ」をこれから利用される方がどれぐらいいるかというところは、市長がおっしゃられた通り、これから周知、PRしていくところですので、随時利用していただくという形になります。

**記者**／そうすると、現在は10団体が所属していて、「渋谷キューズ」の利用にあたって、会員の増を見込むという形になりますか。

**市長**／協議会組織は 10 団体ですね。商工会議所とかいろいろあるのですけれど、そういう単位ではなくて、利用したい企業ですとかという方は、そのサンロクのホームページにある Web ホームに、必要な情報を、例えば氏名とかメールアドレスとか酒田市との関係なんかを入力して、まずは申請します。

サンロクにおきましては、その申請内容を確認して、それが通れば、「渋谷 QWS 使用申請書」というものを送り返してあげて、利用するときに「渋谷キューズ」の受付で、使用申請書の画像をスマートフォンなどで提示をすることで利用できるという、そういう仕組みのようでございます。

したがって、運営協議会の構成団体が増えるということではないのです。運営協議会はいろいろ公的な機関が寄せ集まって、サンロクという組織を作っている、運営をしているというだけですので、そこはちょっと切り替えていただきたいです。利用される方は、また別という理解に立っていただきたいなと思います。

**記者**／市内在住の法人・個人の方、酒田市出身で、例えば東京に住んでいる方が、サンロクの運営協議会を通じて「渋谷キューズ」に申請するということですね。

**市長**／そうです。

**記者**／ちょっと確認したかったのですが、「SAKATA SANROKU innovation space」、これはサンロクさんのサテライト的な拠点という捉え方でよろしいでしょうか。

**市長**／サテライトというと、何か常設というイメージがありますよね。そうではないのです。

**産業振興主幹**／誰か運営協議会の職員が、「渋谷キューズ」にいて待ち構えているというわけではなくて、運営協議会としては、その施設を利用するサービスを、サンロク運営協議会の方に申し込んで使えるようになるという形です。

先程市長が申し上げた通り、酒田にゆかりのある方、酒田の出身、酒田の企業、酒田で何かしら事業を考えているという幅広に利用したい方が、どんなことをしたいかというのを google フォームで入力していただきまして、サンロクの運営協議会の方で確認をしまして、どうぞ利用してくださいというような形です。

**市長**／多分、利用する方は、本来それぞれ会員になって費用負担をしながら利用することになるのですけれど、この酒田ゆかりの人たちにとっては、そういう負担がなく、この「渋谷キューズ」の機能を利用できるというのが、そこがミソかな、という感じですね。

**記者**／入会に関して、料金とか発生はするのでしょうか。

**市長**／はい。サンロクとしては入会しているのでお金を払いますが、申請者の人たちはかからないです。

**記者**／いくら位、入会費を払っていますか。

**市長**／サンロクで払っている入会費ですか。

**記者**／はい。



産業振興主幹／先程、冒頭流した「渋谷キューズ」の動画がありましたけれど、ちょっと時間の関係で端折ったのですけれど、そこにもう明快に出ておりまして、1年間利用サービスを受けるということで110万円でございます。

## ■代表質問

### 1 市長選挙について

記者／一部で「勇退」との報道がありましたが、次期市長選への進退についてお伺いいたします。

市長／これについては、これまでも、いろいろとこの記者クラブ、記者会見の場でもお尋ねがございました。

5月中に判断をするということはお答えをしてきたわけでございますけれども、正直私自身、年明けから退任か続投かということで、熟考してきた経緯がございます。

その結果として、自分の年齢ですとか、或いは体調を考えますと、次の4年間、市長としての責務を果たすのは、これは厳しいと、このような判断をさせていただきました。

従いまして、今の任期、9月5日までですけれども、今限りで退任をしたいということを決断させていただいたところでございます。

記者／では、不出馬の意向ということでよろしいですか。

市長／はい。

記者／不出馬であれば、意中の後継者はいますか。

市長／現時点ではおりません。

記者／先程の藝大との連携のお話の中でも、8年間市長をやる中で文化芸術事業は大きな柱だったということをおっしゃっています。

次の市長に対して、期待することを、今考えてらっしゃることで、喋れる範囲でよろしくお伺いいたします。

市長／そうですね。文化芸術振興だけでなく、私が取り組んできた、例えば住民協働ですとか、市民協働ですよ。それから、何といても産業振興、そして教育環境の充実だとか、或いは子育て支援施策の充実だとか、そういったことを展開してきたつもりであります。

その心は、やはり、もっともっとこの酒田が活気のある元気なまちになって欲しいという思いからやってきたわけです。

市長のその方針によって、何を柱にしてそういった環境に持っていくかということについては、後任の方の考え方にお任せをしたいと思います。もっともっと活力のある元気な酒田、特に人が活発に行き交うような、そういうまちにしてもらいたいと思いますし、福祉施策、教育施策においても、酒田の地で子供たちをしっかりと育てたいと、そういう思いを持ってもらえるような地域環境づくりのために汗をかいてもらえたらいいなど、このように思っております。

記者／すいません。もう1つお願いします。8年とこうやって市長をやってきた中で、や

り切ったということなのか、それとも健康面のところも含めて志半ばというところなのか、これはどちらなのでしょう。

**市長**／私は、やり切ったという思いなのですが、実は市政を預かっている立場で言うと、とにかく、その時々いろいろな地域課題というのは、ぼんぼんぼんぼんと湧き出てくるのです。

例えば、もうご存知の通りアランマーレがV1リーグに上がりました。そうすると、ライセンス条件が来年あたり変わってくるのだと思うのですが、大勢の観客が見学できるような大型のアリーナが必要になってくるということも、当然ライセンスの中では問われてくるのだろうと思います。

そういったものというのは、そうなればいいな、という思いはずっとありましたけれども、アランマーレの皆さんの努力で今回そういうふうになりました。それに応えなければいけないという新たな課題も出て参ります。

とにかく、いろいろな課題が次から次と出てくるのが、市政運営だろうと思います。

そういった意味では、私自身はやり切った感があります。自分が思い描いたまちづくりという意味ではやり切った感がありますし、途中、コロナ禍ということで、その最初の思いが、少し勢いがなくなった部分もありますけれども、しかしながら、それはそれとして、例えばワクチンの接種体制だとか地域医療環境を守るという意味では、しっかり関係機関のご協力をいただいてやり遂げることができましたし、そういう意味ではもう非常に達成感がございます。

そして、新たな課題についても、解決策を見いだすには、おそらくこれは一定の時間軸が必要になってくるのですね。

従って、そういうタイミングからすると、今、この時期、私としてもこれから10年も20年も市長を必要やり続けられるだけの年齢でもございませんので、後進に譲って、新たな課題については、一定の時間を経過する中でしっかり克服していただいて、この酒田をもっともっと元気なまちにさせていただければいいかなと、こういう思いを持っております。

**記者**／先程の後継についてだったのですが、後継については考えていない、未定ということだったのですが、擁立するおつもりがないのか、擁立するつもりで検討しているのか、擁立の有無自体も検討中なのかどれになりますでしょうか。

**市長**／私は、擁立するつもりはありません。

**記者**／今の質問、もう少し詳しく伺いたいのですが、8年間やり切ったということでしたが、その中で、先程おっしゃった文化芸術以外で、市長の方でこれはやり切ったなというものがあれば、印象に残っているものを含めてお伺いできればいいかなと思っているのと、あと一方で、課題についても、アランマーレ以外でもし何かちょっとこれについては課題が残るといえるものがあるならば伺いたいと思います。

**市長**／課題が残るといえる話、ちょっと後ろ髪が引かれるという課題ということですけど、

やはり先程言いましたように、アランマーレのトップリーグに入るにあたっての環境整備という面では、これは今から取り組まなければいけないということで非常に大きな課題だなということで、少し後ろ髪が引かれるという思いはあります。

あと、例えば、今私どもが取り組んでいるのは、観光リゾート系の企業ですとか、或いは製造系の企業の誘致、立地ですね。それについて、今一生懸命取り組んでおります。これについても、できれば実現して、しかるべき場でこういう企業が来ますよというのを発表したかったなという思いがありますけれども、まだその段階に到達していないという面では少し残念です。

それから、何といっても、文化芸術振興の絡みもありますけれども、山居倉庫ですね。国指定の史跡にすることができました。周辺整備は、半ば途中であり、商業高校跡地の開発については完成を見ていないです。そこは、整備の道筋は一応敷かかれているとはいうものの、やはりちょっと時間がこれまたかかるので、見てみたかったなという思いはあります。

それからもう1つは、私が非常に心残りなのは、中学生の自殺です。それも、再調査委員会を私が立ち上げさせていただいて、今、委員の皆さんから調査をやっていただいているわけですが、その結論がいつ出るというところも、はっきり見通せない状況ではあるわけですが、できればそういったものも自分としては1つ、しっかりとした調査報告を受けたかったなという思いはございますが、これもやはり、一定程度、時間軸がかかりますので、それだけにこだわるわけにもいかないというところです。

今回、少し心残りみたいな、やり残した感というところを問われれば、そういったところは少しあるかなと思います。

あとは、例えば京田西工業団地もほとんど売却できたりですとか、或いは、デジタル変革の関係で、NTTデータの本間様洋社長をCDOに招いて、そういうデジタル変革戦略を組めたりですとか、先程も申し上げましたけれども、山居倉庫を国指定史跡にできたりですとか、そういったところについては、先程も少し達成感みたいなお尋ねがございましたけれども、自分が仕掛けたことで一定の成果は出せたかなあという思いは持っておりますので、そういう意味では、タイミング的には今この時期、節目として区切りをつけていいのかなという思いを持っているところです。

**記者**／市長選の後継というか、今後のご自身の関わり方についてなんですけれども、先程言われた、もっと酒田を元気にというところですか、元々、前の市長から受け継がれたというところもあると思うのですが、そういったご自身のこれまでのまちづくりに沿った、例えば主張なり、そういった候補が出てきた場合には応援する可能性はあるのでしょうか。その辺はどのようにお考えでしょうか。

**市長**／それはございます。

酒田のまちづくりに対して、強い情熱と、それから行動力を持った人が出てきて、それも、私が考える酒田のまちづくりの方向性と合致しているということであれば、私もその

方を積極的に応援したいと、そういう思いはございます。

今日、こうやって皆さんのご質問に答えて退任しますよと明確に言ったのは、初めてなので、今後そういう方々が手を挙げてくるか、そういった動きを見つつ、その方の方針などを自分なりに評価させていただいて、自分の行動について、支持をしていくのか、一定の距離を置くのかは、それは判断をしていきたいと、このように思っております。

**記者**／勇退後の市長のご予定ですが、何かこれから予定されていることはあるのでしょうか。お決まりの質問ですけれども、例えば国政への転身はありますか。

**市長**／全くございません。何もございません。

**記者**／8年間ご苦勞様でした。

**市長**／まだ3ヶ月ありますから。まだ終わったわけではないので。

**記者**／私としてはすごく意外だったのですけれども、やはり一番大きな勇退の理由というのは、体力的なものというのが一番だったのでしょうか。

あともう一つ、これは市民を代表してお伺いしますけれども、副市長を昨年末に新しく安川さんにされたわけですけれども、市民の方は、普通、後継というのは副市長ではないのかなと思っているわけですけれども、副市長人事というのは、いわゆる勇退を見据えた布石ではなかったのかというふうに見ている市民はいっぱいいるのですが、副市長人事というのは全くそれと関係なかったのでしょうか。

**市長**／結論から言うと、直接的には何も関係なかったということであります。

その時期は、来年どうするかというのは、もちろん頭の中ではいろいろ考えてはおりましたけれども、結論は出ていません。先程申し上げましたように、年が明けてからどうするかということを真剣に考えていったわけなので、副市長を交代させるというのは、実際は11月くらいとか、そのくらいの話でした。

矢口前副市長については、大学に戻るタイミングというのがございましたので、やはり、大学側で教員を募集しているとか、そういうタイミングを見計らって大学にお戻りいただいたということです。

その中で、次の後任については、安川副市長、やはり何といたってもこの地域で一番今力を入れなくてはいけないのは産業振興だと思います。今回、サンロクの「渋谷キューズ」の話をさせていただきましたけれども、産業振興、特に新しいこれからの起業の創出、或いは地元の中小企業の生き残り策というのは重要だと思っていました。

サンロクも、実は私が市長になって立ち上げたわけですけれど、ある意味、自分の公約の大きな柱だったのです。

これを作ることによって、酒田の産業をもっともっと元気にしたいと思いがりましたので、そこを担ってきていただいた安川さんからは、副市長になってもらって、さらに馬力をつけてやっていただきたいなという思いで、去年の秋口にはそういう人選をしてきたということです。

ただ、いろいろ状況が変わってきて、年明け後に私もこのような状況で、退任という判断をする中で、副市長人事は直接、関わりがない判断だったということだけは申し伝えたいなと思います。

#### ■フリー質問

- ・特になし

#### ■その他

配布資料／TOCH i TO（とちと）お披露目式典が開催されます